

こうばる(川原)の今

連休明けの5月9日に座り込みが再開され、県職員も、双眼鏡片手にビデオ撮りの「お仕事」再開。あまりにも残念なお仕事に同情さえおぼえます。

4月20日、春到来の美しきこうばるを訪れ、住民の墓に手を合わせた30代の若き新知事(大石賢吾氏)の胸に何が去来したかはわからない。何度も嘘をつかれ、自分たちの土地、家を国によって奪われた住民にとって、住み続けることが生きることであり闘いです。知事の今回の行動が茶番劇か瓢箪から駒となるか。石木ダムが無用のダムであることはすでに自明の理なのですから、住民は騙されません。でも、希望は持ち続けています。

現在工事は、付け替え道路の建設(まだ3分の1程度しかできていない)と、ダム本体工事ための準備作業(樹木の伐採や掘削)を行っています。地質調査(ボーリング)も長期にわたり、今なお



現場での座り込み 2021



現場での座り込み 2022

続行中です。ダムサイトの地盤に問題があることは48年前からわかっていて、県は補強工事によってこれはクリアされるとしています。軟弱地盤に莫大な費用がかけられている辺野古の愚を繰り返させてはなりません。

座り込み現場の周辺は土砂の山に挟まれています。毎日淡々と座り込みを続けています。ホオジロ、キセキレイ、ジョウビタキなどの鳥たちが、私たちにエールを送ってくれています。皆さんも機会があれば、こうばるに来てください。

石木川まもり隊 牛島万紀子

WATER & THE YANBA

vol. 35

CONTENTS

- ④ 「安全な水の供給」と「水害の心配のない暮らし」 武笠紀子
- ④ 第19回総会について
- ④ 水道の民営化と広域化 嶋津暉之
- ④ ハッ場ダム現地の状況 渡辺洋子
- ④ こうばるの今 牛島万紀子
- ④ フルプランはフルプラン 大野博美
- ④ 編集後記 川口絵未

編集：猪俣悦子

水問題とハッ場ダムを考える千葉の会

代表：武笠紀子・大野博美
 住所：〒270-0007 松戸市中金杉4-71-2
 TEL：090-9365-9608 (武笠)
 WEB：「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」
 で検索してください。

2022年6月1日発行

「安全な水の供給」と「水害の心配のない暮らし」

この2022年4月、宮城県では、日本で初めての水道事業の民営化が始まりました。経費の削減が目的ですが、生活インフラとしては、電気・ガスより重要な水道事業です。水道料金が高くないか？水質の管理は？料金未納で水が止まらないか？会社が倒産したら？地震で施設が壊れたら？等、気になる問題が山積んでいます。千葉県で始まっている水道事業の広域統合についても民営化とのつながりを注視していきます。

水害対策(治水)としては、計画されていたダムの建設は止まらず、千葉北広域水道が参画している栃木県の南摩ダム建設も進んでいます。集中豪雨時には、緊急放流等でかえって洪水の危険が高まるようになってきた『ダム』です。流域治水等、ダムに頼らない治水を学んでいきたいと思います。(共同代表 武笠紀子)



こうばるのキセキレイ

第19回総会について

第19回総会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えないため中止し、今回も書面での議決とします。

●会費納入のお願い

(一口 1000円/年)

会費振込先：00120-5-426489

*会計年度は1月から12月末まで

嘉田由紀子さん講演会

(参議院議員)

「流域治水が日本を救う」

日時：8月7日(日)13:30~15:30

オンライン開催

申込フォーム：

<https://forms.gle/feW3mJwfRkGNo1Bu6>

フルプランはワルプラン

千葉県は、自前の水需給計画作成を数年前に放棄し、国の「水資源開発基本計画(通称フルプラン)」に依存するという情けない状況です。フルプランは、「ダムプラン」と呼べるほどダム開発最優先の計画で、直近ではハッ場ダムが作られ、今後も霞ヶ浦導水事業や思川開発(南摩ダム)などが続きます。

◆フルプランのワルあがき

近年、人口減と節水機器普及により水の需要は頭打ち。右肩上がりの水需要を見込み、ダム開発を推進してきた従来のフルプランでは齟齬が生じます。そこで国は「奥の手」として、半世紀前の歴史的な大渇水を引っ張り出してきました。同じ規模の渇水が再度

起きたときのために、新たな水源(ダム)が必要だとする「第6次フルプラン」です。

しかし、当時は気象観測技術も不十分で大渇水を予測できず、断水が起きました。現在は、気象予測が精密になり、この20年間は断水はゼロ。最大で10%の取水制限が4回発生しただけです。

◆熊谷知事に期待

千葉県は、国の言うままにダム開発に参画してきました。千葉市長時代に霞ヶ浦導水事業からの撤退を決断した熊谷知事。その理念を知事になっても貫けるよう、私たちは知事の背中を押し続け、声を上げていかなければなりません。(大野博美)

編集後記

2019年10月25日豪雨で、千葉県一宮川が氾濫し、広範囲に浸水しました。翌年から県は、流域治水プロジェクトに着手、2021年度は中下流域の河川整備(河道拡幅・掘削、堤防50cm嵩上げ、調整池増設)が行われました。一宮町は、新築家屋に雨水の宅内浸透処理をお願いしています。

今年度は上流域・支川の河川整備を事業化。既存家屋は輪中堤等で守り、輪中堤外の浸水範囲に新築する家屋は、1階

の床を想定浸水位よりも高くするルールを新設。また、田んぼダムに関するアンケートにおいて、「効果は(多少)あると感じられる」が全体の約9割、「是非、又は、内容によっては協力」が約8割と、好意的な結果となっています。農作物補償やジャンボタニシが増えないかも課題です。『流域治水』に今後も注目です。(川口絵未)



水道の民営化と広域化

水源開発問題全国連絡会 嶋津暉之

今年4月から、上下水道と工業用水の20年間の運営権を民間に一括売却する宮城県の「みやぎ型管理運営方式」が始まりました。生活を支える水の安全性などへの懸念から、宮城県内でこの民営化に反対する市民集会が開かれてきています。

水道民営化には懸念される問題がいくつかありますが、宮城のケースは水道事業全部の民営化ではありません。添付の記事の通り、管路の維持管理（更新）などが抜けています。管路の維持管理はかなり費用がかかるものであって、採算性の低いものは最初から除外されたようです。

日本初の水道民営化ということで、村井嘉浩・宮城県知事がさかんにアピールしていますが、現実には民営化してもさほど大きな問題が生じない部分に限られているようです。宮城の水道民営化は村井知事のパフォーマンスとして行われた面が強く、実態をきちんと検証する必要があります。

水道の民営化と広域化を進めやすくするため、2018年12月に水道法が改正されました。人口減少に伴う水需要の減少、水道施設の老朽化など、水道事業の課題に対応するためとされています。

水道の民営化は先鞭をつけた宮城県の実態を見ると、これからそれほどの広がりを見せるとは思われません。むしろ、今後の動きとして注意を要するのは水道の広域化の方ではないかと私は思います。

水道の広域化とは、従来は各市町村で行われた水道経営を統合して企業団方式の経営や都道府県の経営にすることです。広域化はこれまでも一部のところで進められてきています。東京都の多摩地区で

千葉県内の水道統合・広域化の動き	
袖ヶ浦、木更津、君津、富津の4市など	かずさ水道広域連合企業団を2020年度に設立し統合作業
館山、南房総、鴨川、鋸南の4市町など	22年3月に安房地域水道事業統合協議会を設け、25年の統合を目指す
県企業局の県営水道と南房総・九十九里地域の水道企業団	22年4月に統合協議会を設立し、5月にも初会合

は武蔵野市、昭島市、羽村市を除く26市町の水道事業は現在は東京都水道局が運営しています。また、群馬県では2016年度から東部の太田市、館林市等の8市町の水道が統合され、群馬東部水道企業団になりました。

水道の広域化で最も心配されることは、各市町が水道の経営権を失うことに伴って、今まで使ってきた自己水源（地下水）がダム水源の河川水に切り替わっていくことです。東京都の多摩地区では、独自経営の上記三市は地下水依存率が80～100%で非常に高い状態が維持されていますが、統合化された市町村は近年の地下水依存率が平均20%以下でかなり低くなっています。

不要なダム建設等の水源開発事業がいまだに行われてきています。その開発水を各市町村の水道に使用させることが国の方針ですので、今後、水道の広域化がそのような目的も兼ねて推進されていくことを警戒せざるを得ません。

「みやぎ型管理運営方式」導入前後の役割分担

	現在	みやぎ
民間との契約期間	4～5年	20年
事業全体の総合的管理・モニタリング	県	県
浄水場等の運転管理	民間	民間
薬品・資材の調達	県	民間
設備の修繕・更新工事	県	民間
水質の担保	県	県
管路の維持管理、建物の更新工事	県	県
災害時対応	県	県

水道みやぎ4月1日開始、20年間の運営権、民間に売却。全国初、成否に注目

(河北新報 2022年3月31日)

運営権者の構成企業

【代表企業】 メタウォーター	
【構成企業】 ヴェオリア・ジェネッツ 日立製作所 メタウォーターサービス 復建技術コンサルタント 橋本店	オリックス 日水コン 東急建設 産電工業

八ッ場ダム現地の状況

八ッ場あしたの会 渡辺洋子

八ッ場ダムが完成してから2年たちました。

試験湛水中の2019年10月の大型台風（令和二年東日本台風）襲来で土色に濁ったダム湖も、ダムの運用が開始された2020年春には空の色を映し出した青い湖になり、ダム湖観光のすべり出しは快調に見えました。水陸両用バスは乗車券が一人3500円もしますが、マスコミで繰り返し取り上げられたせいか、当初は運行ごとに満席になるほどの人気でした。

ダム堤の脇には「なるほど！八ッ場資料館」がオープン、堤体上からエレベーターで降りるとダム直下の吾妻峡へ。ダム湖の周りには道の駅、湖（みず）の駅など観光施設のほか、水没地域の発掘調査の成果を展示する「やんば天明泥流ミュージアム」、いたる所に整備された公園と、観光客が遊ぶ場所には事欠きません。

けれども、かつて観光の中心だった川原湯温泉は閑散としています。旅館6軒が代替地で再建したものの、代替地全体としては空き地が目立ち、往時の温泉街の賑わいを知る周辺住民からは、「川原湯温泉がなくなってしまった」という声も聞かれます。この5月には、老舗旅館の山木館が休業に。

JR川原湯温泉駅の脇にはグランピング（豪華キャンプ場）を備えた「川原湯温泉あそびの基地NOA」が建設されましたが、利用シーズン、利用客ともに限られています。今春にはクラフトビールの醸造が始まりましたが、NOAの運営はすべて東京の会社が担っており、地元の雇用創出という本来の目的には繋がっていません。

コロナ禍もあり、ダム事業で整備された営業施設の中で黒字なのは道の駅のみということです。施設の維持管理が地元・長野原町の大きな負担となることは必至です。

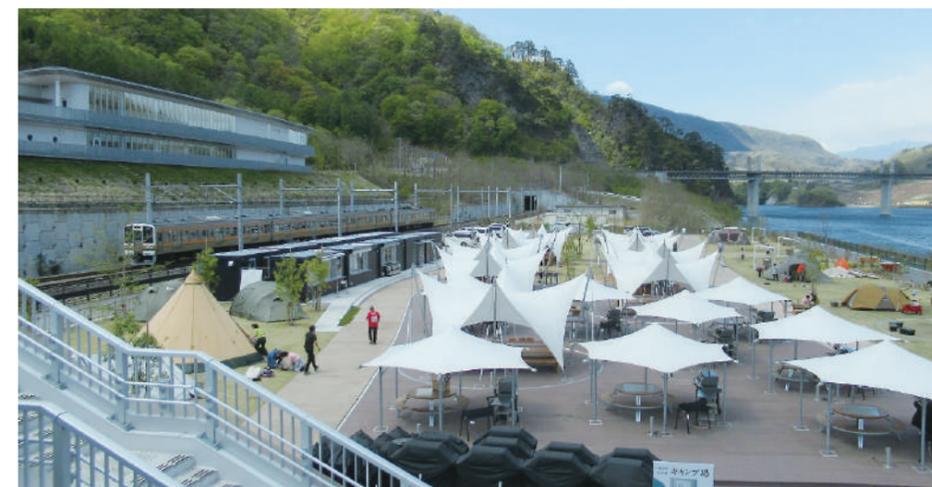
ダム事業による地域の疲弊は、人口減少、高齢化をもたらししました。水没地区の児童が通った長野原第一小学校は2021年3月31日、東京オリンピックの聖火リレーが八ッ場ダムを走った日に、100年



ダム直下

以上の歴史を閉じました。全校生徒数は17人に減少していました。ダム事業で園芸施設を整備した「いちご生産組合」も担い手不足で解散します。

ダム湖観光にとって重要な水質はどうか。水の濁りはまだ目立ちませんが、堆砂は想定よりはるかに速く進行しています。阿部知子衆院議員事務所が入手した国交省の最新資料によれば、2021年3月末の堆砂量は299.5万m³でした。これは八ッ場ダム計画における年間平均堆砂量の17年分に相当します。八ッ場ダムは完成から一年で、ダム計画で想定した100年の寿命のうち17年分を使ってしまいました。昨夏からダムの上流端で堆積土砂を除去する作業が始まりましたが、大雨が降るごとに上流域から新たな土砂が流れ込んでいます。



川原湯温泉あそびの基地